

藤のかほり

2022年6月11日(土)発行

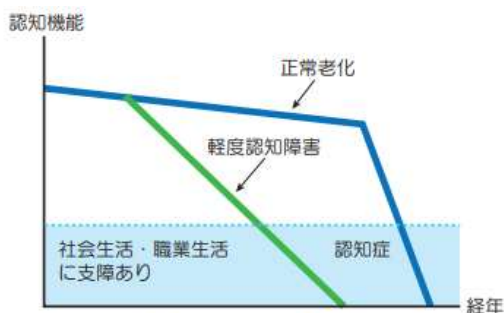
近年、テレビや書籍などでも認知症について取り上げられることが増えました。最近だと、戸田恵梨香さんとムロツヨシさんの出演した「大恋愛～僕を忘れる君と～」というドラマでは、ヒロインが若年性アルツハイマー病と診断され、話が進むなかで、症状も進んでいく様子が細かく描かれていたように思います。

第2号では『認知症ってどんな病気？』をテーマとし（今回は『その①』で、数回に分けて紹介していきたいと考えています）、アルツハイマー型認知症と脳血管性認知症について紹介したいと思います。

『認知症ってどんな病気？その①』

私たちの心や体のほとんどの活動は脳によってコントロールされています。脳の働きがうまくいかなくなると知的にも身体的にもなめらかに機能しなくなります。認知症とは、さまざまな原因で脳の細胞の働きが悪くなり、細胞が減ってしまうことによって、一旦は成熟した知的機能が低下してしまい、生活するうえで支障が出ている状態です。

認知症は一つの病気ではなく、原因となるいろいろな病気がおこす症状です。認知症を引きおこす病気のなかでいちばん多いのが「変性疾患」と呼ばれる病気です。変性疾患は、脳の神経細胞の働きが悪くなり、ゆっくりと神経細胞が死んでいく、原因のわからない病気です。



軽度認知障害と認知症の概念的变化
[認知予防・支援マニュアル 東京都老人総合研究所より]

アルツハイマー型認知症

1番多い(約6割)認知症の原因で、アルツハイマー型認知症(アルツハイマー病ともいいます)があります。本当の原因はまだ明らかになっていませんが、この病気の初期に神経細胞のまわりに「アミロイド」という異常なたんぱく質が集まります。その後、何年もかけて神経細胞の機能が悪くなり、細胞の数も減って、やがて脳が萎縮してきます。こうして認知症が始まり、初期には、ついさっきのことを忘れるといった記憶障害が目立ち、ガスの消し忘れや物盗られ妄想などがよくみられます。進行期には過去の記憶も障害されてきます。場所が分からず、自分の家の中で迷子になることもあります。徐々に自分のことができなくなり、最終的には動けなくなってしまいます。

脳血管性認知症

脳梗塞や脳出血など、脳血管障害でおこる認知症です。認知症の2～3割を占めるといわれています。認知症があり、脳血管障害も確認できて、なおかつその両方に関連があることが脳血管性認知症というための条件になります。原因が脳血管障害ですから、脳血管障害の予防がなにより大切です。高血圧、糖尿病、脂質異常症などいわゆるメタボリックシンドロームを適切に治療することが脳血管性認知症の予防につながります。

イベントのお知らせ

2022年6月30日(木)14:00～16:00
認知症カフェ“しのづカフェ”を開催します。
参加費は無料です。参加をお待ちしています。

気になることなどがあれば、まずはご相談ください
相談専用電話 TEL:0274-20-1103